

小郡市寺福童遺跡 4 より 出土した銅戈の保存修理

1 はじめに

平成16年6月、福岡県小郡市寺福童で、宅地開発に伴う道路・水道整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査により、中広形銅戈9本が埋納されている状態で出土した。埋納遺構は、南北60cm、東西18cm（残存幅）の不整長方形で、深さは12～15cmであり、その中に鋒先を南に向けて7本、北に向けて2本、合計9本の銅戈が埋納されていた。銅戈の埋納遺構が検出された例は全国的にも珍しく、9本もの銅戈が一括で確認された例は全国でも初めてのことである。この銅戈と埋納遺構は、埋納の工程を復元でき、埋納という行為のもつ意味や意図を考える上でも重要な資料になると位置づけられている。

保存修復科学研究室では、平成16年度に発掘現場における検出状況での一時的な仮強化処置と遺構の切り取りをおこなった。その後、平成17年度と18年度の2ヵ年にわたり、小郡市教育委員会との共同研究として、銅戈の保存修理をおこなってきた。以下に共同研究の概要を報告する。

2 遺構の切り取り

検出された銅戈はその刃部の腐食が著しく、そのままでは遺構の切り取りにおいて損傷を与える恐れがあったことから、まず刃部にアクリルエマルジョンを用いて紙



図49 銅戈の検出状況（遺構切り取りの直前）



図50 銅戈の保存修理（クリーニング）

を貼りこむことによる一時的な仮強化をおこなった。その後、切り取る範囲の周囲を掘り下げ、紙による遺構表面の保護、ウレタンテープによる周囲の固定をおこない、硬質発泡ウレタン樹脂を用いて梱包した。遺構下部はハンドオーガーで穿孔し、硬質発泡ウレタン樹脂を充填した。この作業を繰り返しおこない、全体をウレタン樹脂で包んだ。下部には一部銅製単管を挿入してウレタン樹脂を充填した。その後、全体を銅製単管で枠構造を組み上げ、重機で吊り上げて切り取りを終了した。切り取られた遺構は小郡市埋蔵文化財調査センターに搬入した。

3 銅戈の保存修理

切り取り遺構から、銅戈の埋納状況を調査しながら一点ずつ慎重に取り上げをおこなった。取り上げた銅戈は奈良文化財研究所に搬送し、保存修理をおこなった。保存修理は、写真撮影、実体顕微鏡観察およびX線透過撮影などの事前調査の後、クリーニング、ベンゾトリアゾールによる安定化処置、アクリル樹脂による強化処置をおこない、破片の接合をおこなった。クリーニングは基本的には面相筆および綿棒とエチルアルコールを用いて付着した土を除去するのに留めた。

保存修理中の詳細な観察と記録から、銅戈の劣化状態について多くの知見を得ることができ、それらを基に銅戈を良好な保存状態に移行させることができたことは意義深いものといえる。

（高妻洋成・肥塚隆保・降幡順子・山崎頼人／小郡市教育委員会）